2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基本技術Ⅱ(コミュニケーション技術)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	12　時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	本館2階・202・203
担 当 教 員	岡田　千鶴	実務経験とその関連資格	国立病院機構で36年勤務、管理職20年、最終は看護部長職			

《授業科目における学習内容》

1. 接遇　、2. 共感力を養う、3. 関係構築のためのコミュニケーション技術、4. コミュニケーション障害のある患者の理解と対応技術、5. 看護場面でのコミュニケーション対応技術、6. 模擬演習(ベッドサイドでのコミュニケーション)、7. プロセスレコードの作成とリフレクション

《成績評価の方法と基準》

平常点:①第2回授業後の課題レポート提出(5点)、②第6回模擬演習の実践(10点)、②第6回プロセスレコードを作成提出(5点)、　終講テスト:20点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

19巻　基礎看護技術 (P20～49)

《授業外における学習方法》

学校生活の場で接遇の基本的動作が振舞える。社会生活・実習の場で相手の気持ちを読み取りながら会話する習慣をつけること。

《履修に当たっての留意点》

講義最終回には医療場面を事例設定してコミュニケーションの演習を行う。学習効果をあげるためには役割になりきることがコツ。　授業中はひたすら話の意味を理解ために傾聴することがコミュニケーショントレーニングであると考える。　授業進度に伴い、教科書内の問題集を解いておくこと

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	成人学習者としての接遇が修得・確認できる		
		各コマにおける授業予定	挨拶・目上の人々に対する敬語を用いた会話が修得できる 人間関係の構築のための要因を理解する 規律を守ることの意味が理解でき、遵守できる		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	共感する力を養う	授業後レポート(課題レポート)	
		各コマにおける授業予定	アプラクトドラマの手法を用いた授業展開		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションとは 言語障害のある患者への対応を習得する	・テキストP20～48	yu-tube鑑賞 (認知症患者) (言語障害患者)
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションの構造を理解する 言語障害患者の実際を理解する 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを理解する　効果的なクローズドクエスチョンの		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護場面でのコミュニケーションを体験する	・テキストP42 ロールプレイング患者のシナリオ有　リフレクション①　(当日回収)	実習室(白衣着用)
		各コマにおける授業予定	患者の気持ちを考えなが看護専門職としてのコミュニケーションを体験し、課題を見出す		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護場面(ペーパーシミュレーション)から対応を習得する	・配布資料 リフレクション② (当日回収)	
		各コマにおける授業予定	看護場面(ペーパーシミュレーション)の難易度の高いコミュニケーション場面を分析し、適切な支援者としての対応を習得する		
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	がん告知された患者とのコミュニケーションを模擬体験する	教科書P48 ロールプレイング患者のシナリオ有	実習室(白衣着用) 課題:自己の演習場面を撮影した動画を再生し、プロセスレコードを作成し提出
		各コマにおける授業予定	がん告知された患者とのコミュニケーションを模擬体験し、録画する　(課題)録画からプロセスレコードを作成し、患者・看護師のp心情を振り返る		